

# マイナビキャリアリサーチLab 化学工業レポート（2023年5月）

マイナビキャリアリサーチLab 編集部

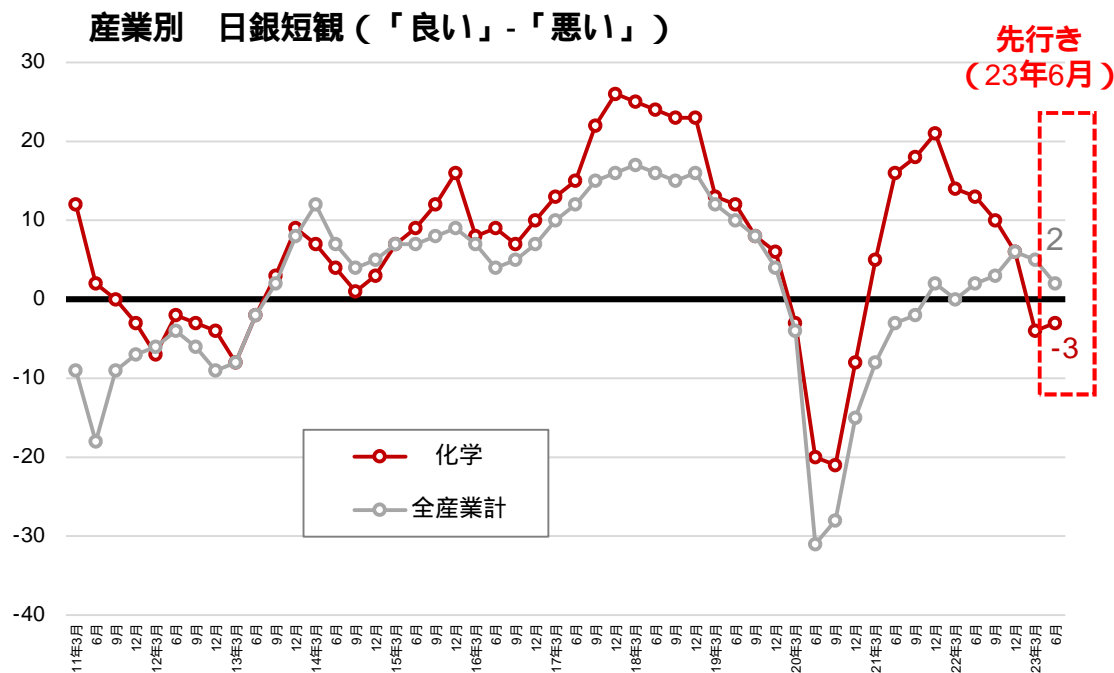
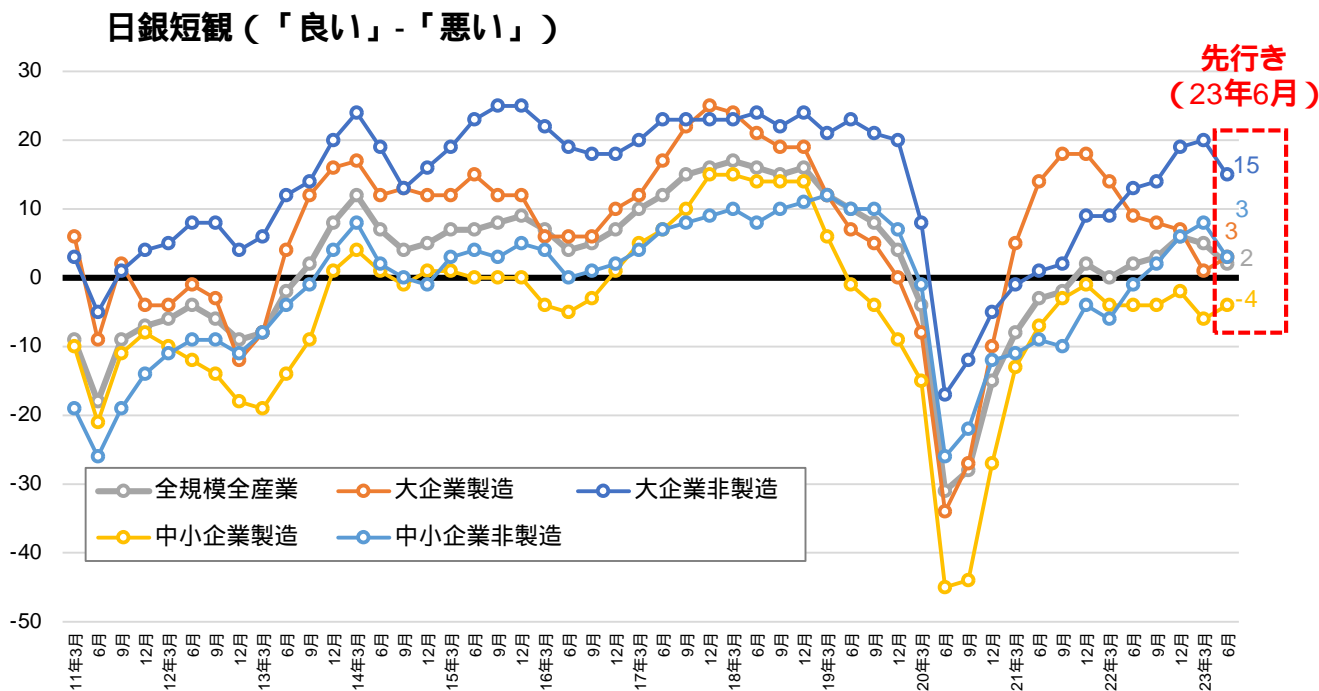


これら資料は、作成日時点で弊社が信頼に足ると思われる資料に基づいて作成しておりますが、弊社が実施していない調査などに関して情報の正確性を弊社が担保するものではありません。

また、これら資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。

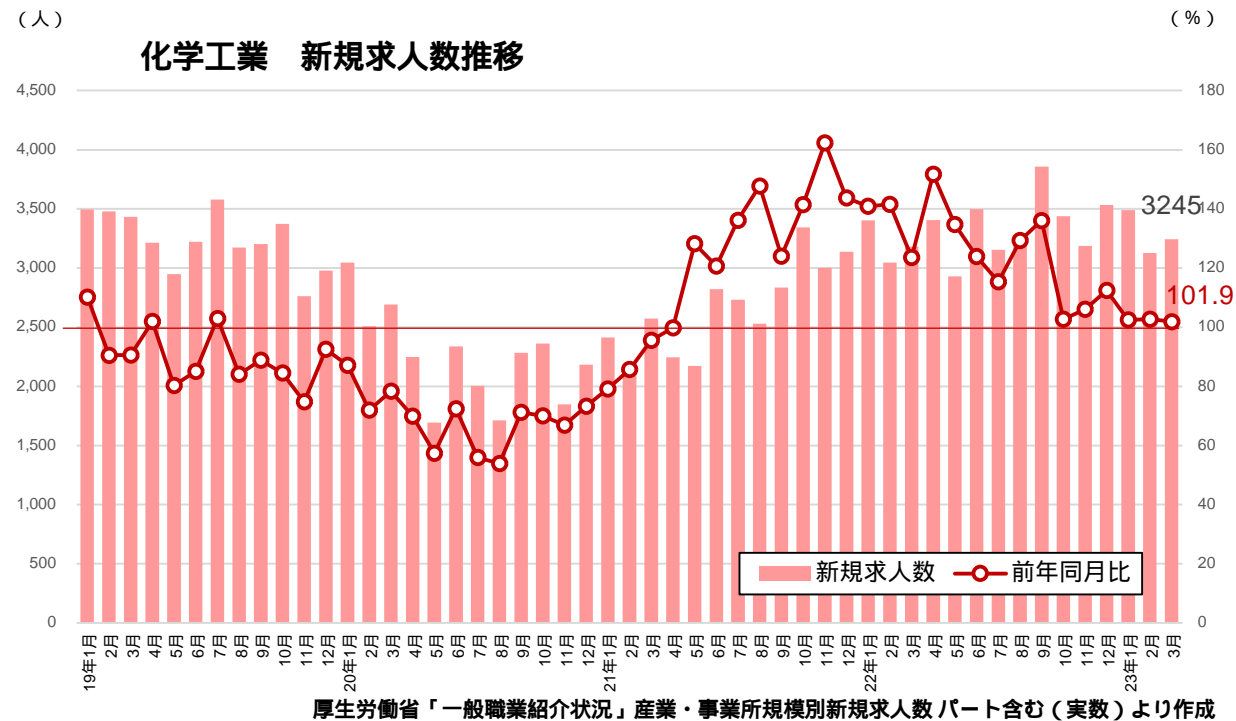
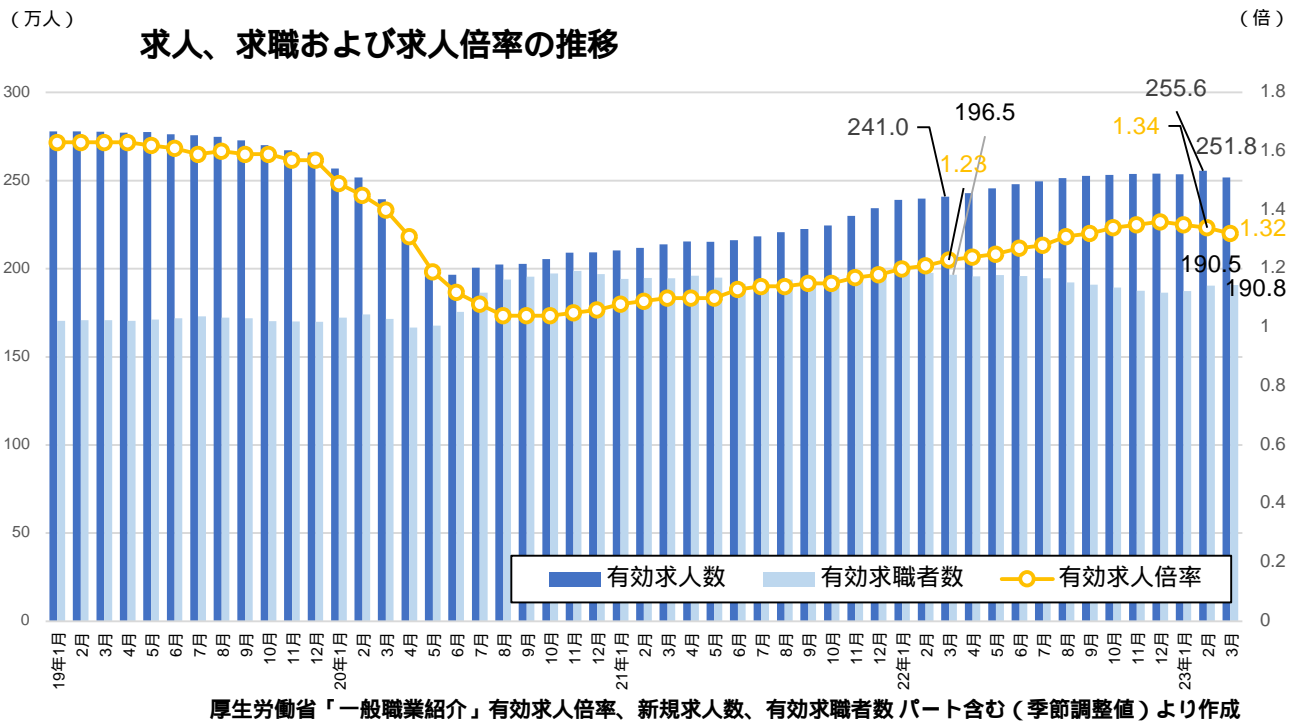
# 業況感は製造業は概ね横ばい、非製造業は小幅の改善 先行きについては製造業で悪化、非製造業では改善している

- ・企業の業況感は全体として横ばいになっている。3月は、製造業が悪化したものの、非製造業は改善を続けた。製造業は、供給制約の影響緩和や価格転嫁の進展はみられたものの、既往の資源高の影響が残るもとの、海外経済の回復ペース鈍化やIT関連財の調整圧力の継続が意識されたことから、大企業を中心に悪化した。非製造業は、既往の資源高の影響は引き続きみられるものの、感染症の影響が一段と緩和し、価格転嫁も進むなかで、全体としては改善を続けた。（日本銀行「経済・物価情勢の展望2023年4月」）
- ・「化学工業」の業況感は21年12月の21から下がり続けており、23年3月では-4と悪化。23年6月の先行きは-3とやや改善の見込み。



# 有効求人倍率は1.32倍。前月比で0.02pt減、前年同月比で0.09pt増 化学業界の新規求人数は前年同月比102.7%とほぼ横ばい

- ・有効求人倍率はコロナの影響により2020年から低下していたが、求人数の回復により徐々に増加傾向となっている。2023年3月の数値をみると、有効求人倍率は1.32倍となり、前月比で0.02pt減少、前年同月で0.09pt増加した。有効求人倍率は前月比で1.5%減、前年同月比で4.5%増。19年1月と比較すると、全体で9.4%減となった。有効求職者は前月比で0.2%増、前年同月比で2.9%減、2019年1月比では11.6%増となった。
- ・2023年2月の化学業界の新規求人数は3129人。前年同月比101.9%とほぼ横ばい。

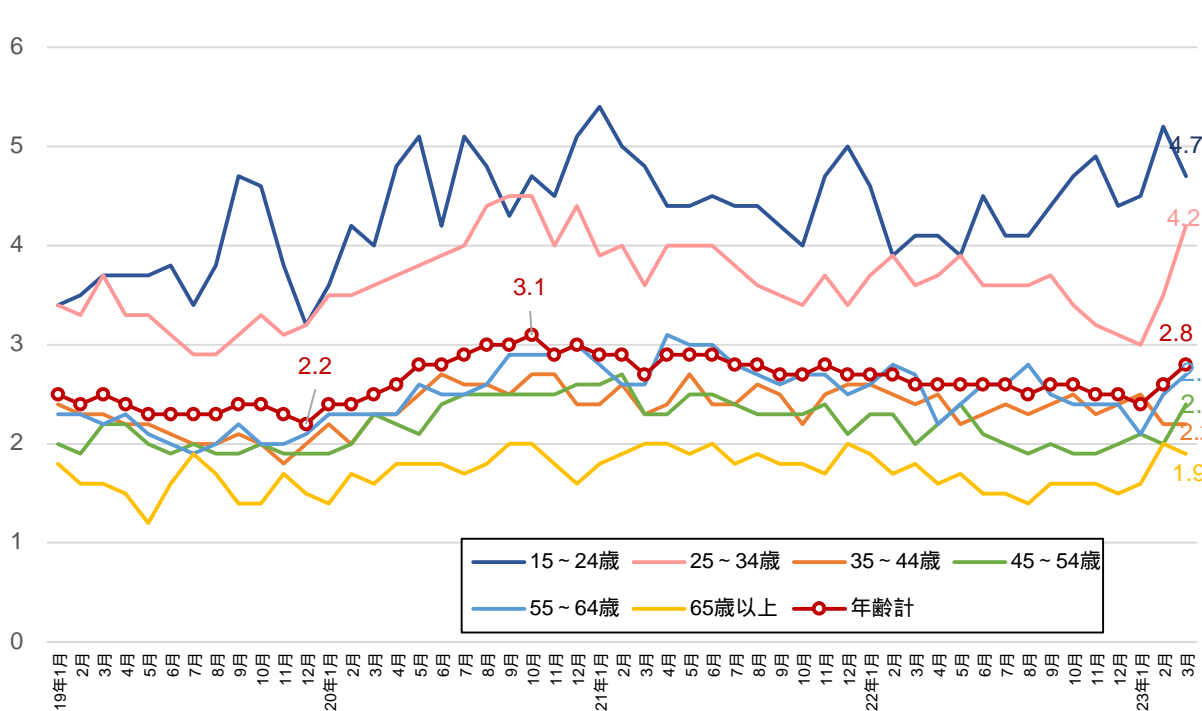


# 完全失業率は2023年3月時点で2.8%に回復 化学の人材不足感は-20と、全産業と比較すると低め

・完全失業率はコロナ禍の影響を受け、2019年12月の2.2%から2020年10月には3.1%まで上昇した。しかし、その後は緩やかに改善がみられ、直近の2023年3月では2.8%となった。年代別の比較では、若い世代（15～24歳、25～34歳）の失業率が高くなっているが、若年層は自発的な転職希望割合が高い為、失業率が高めに出る傾向にある。これは国際比較でも同様の傾向がみられ、日本特有のものというより万国共通の特徴と言える。

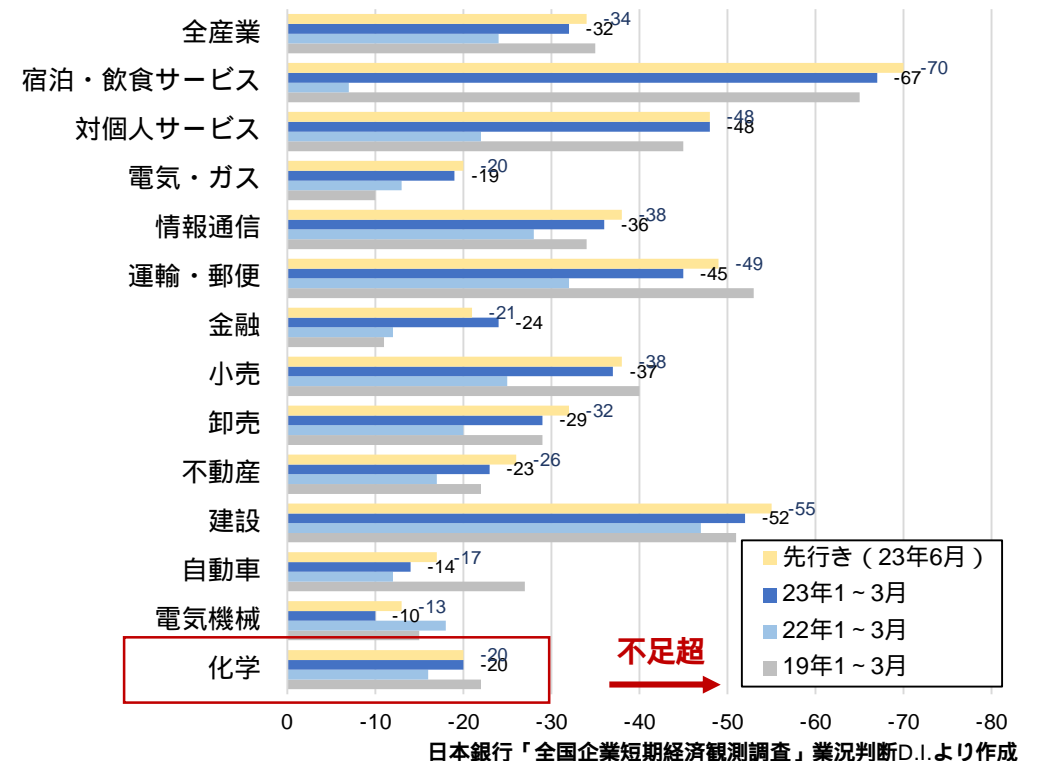
・「化学」の雇用人員判断D.I.を見ると、23年1～3月、先行き（23年6月）共に-20の不足感となっている。

完全失業率



総務省統計局「労働力調査調査」完全失業率 年齢階級別（季節調整値）より作成

雇用人員判断D.I.（不足－過剰）



不足超

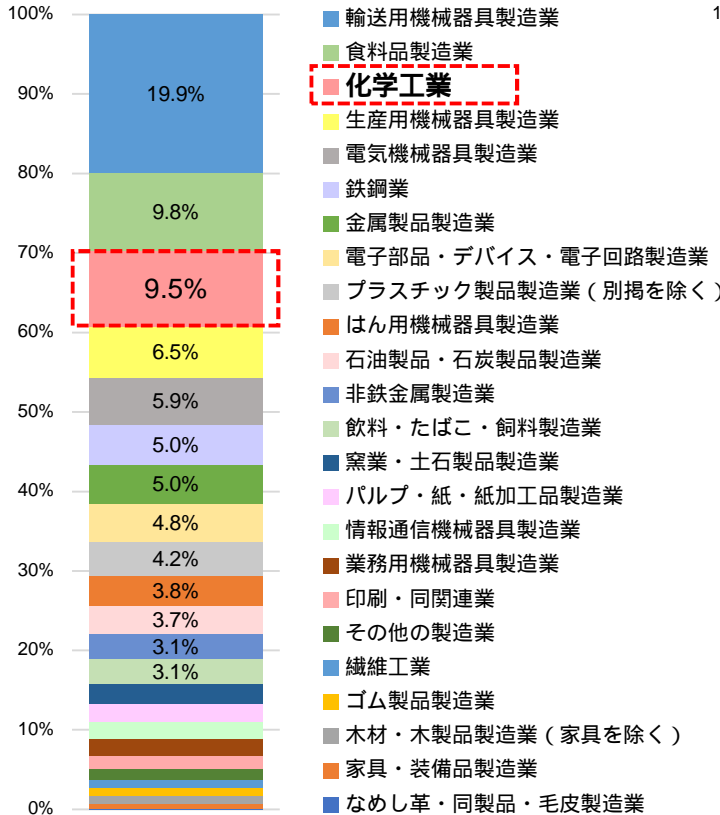
日本銀行「全国企業短期経済観測調査」業況判断D.I.より作成

# 化学工業の2020年出荷額は28兆6,030億円 出荷額割合は輸送用機械器具（19.9%）、食料品（9.8%）に次ぐ9.5%

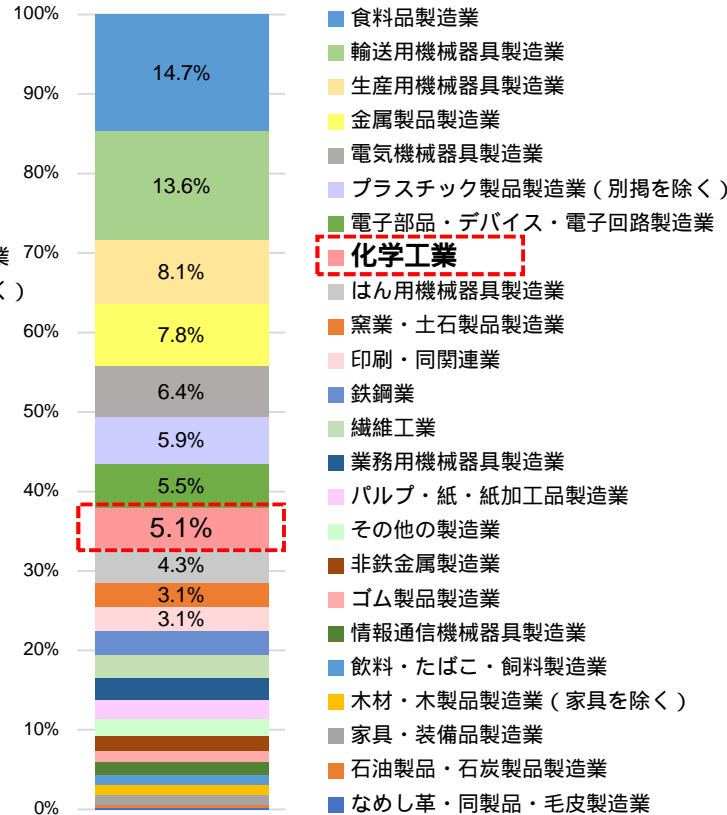
日本の化学工業は、さまざまな機能を持つ素材の提供を通じて暮らしと産業を支える重要な産業。2020年の出荷額は28兆6,030億円で、製造業全体の9.5%を占めており、自動車産業などの輸送用機械器具19.9%、食料品9.8%に次ぐ規模の産業となっている。出荷額の推移は2019年の29兆2,527億円から減少しているが、製造業における割合は9.1%から9.5%と増加。従業員数は37.8万人で、製造業全体の5.1%。従業員推移も出荷額と同様に2019年の38.1万人から減少しているが、製造業における割合は4.9%から5.1%と増加している。

（本レポートにおける化学工業にはプラスチック製品やゴム製品は含まない）

2020年 製造業全体の製造品出荷額内訳

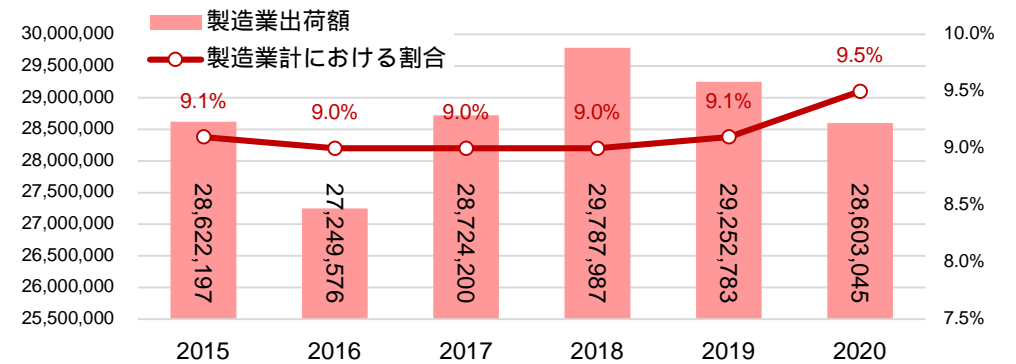


2020年 製造業全体の従業者数内訳

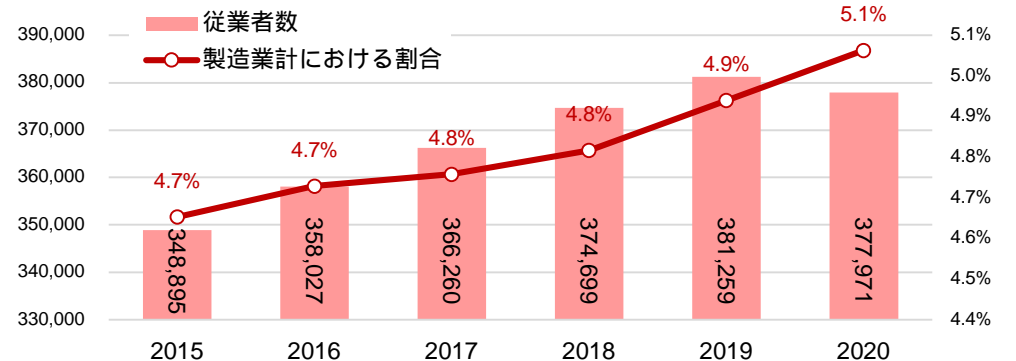


3%未満の数値記載要

化学工業の製造品出荷額（百万）推移



化学工業の従業者数（人）推移



令和3年経済センサス 活動調査 製造業（産業別統計表データ）（従業者4人以上の事業所）

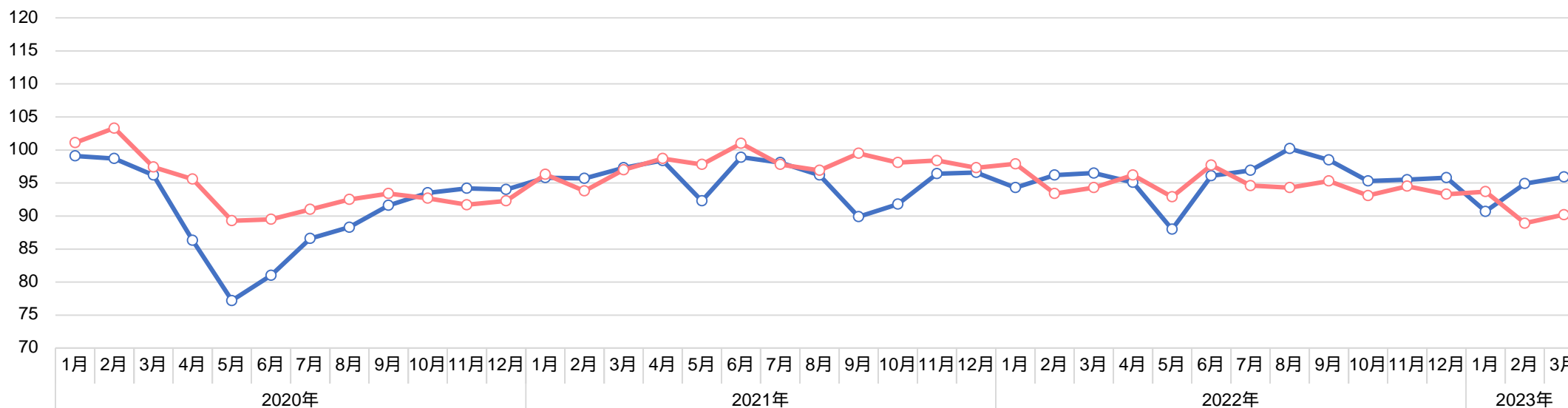
2023年3月の鉱工業生産指数は95.9。2か月連続の上昇  
 「生産は緩やかな持ち直しの動き」に引き上げ  
 「化学工業（除・医薬品）」の季節調整済指数は90.5。前月比微増

2023年3月の鉱工業生産全体は、季節調整済指数95.9、前月の94.9から増加となり、2か月連続の上昇。鉱工業生産の3月の基調判断については、「生産は緩やかな持ち直しの動き」に引き上げられた。鉱工業生産を上昇方向へ引っ張った3業種は、1位が自動車工業、2位が生産用機械工業となった。3位となった化学工業の中でも「柔軟仕上げ剤」と「せっけん類」が影響度が大きい2品目としてあげられた。

「化学工業」の季節調整済指数は90.2。前月比増加となった。  
 （経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室 2023年5月17日発表より）

鉱工業生産指数とは、日本の生産、出荷、在庫に関連する諸活動を体系的にとらえるもの。様々な製品の多様な生産活動を表す総合的な指標として経済産業省より鉱工業生産指数が作成されており、経済指標の中では最も重要なものの一つ。指数の基準時は5年ごとに更新され、現在の指数値は、2015年の平均を100とした比率で示される。

鉱工業生産指数の動向（鉱工業全体と化学工業）【2015年=100、季節調整済】

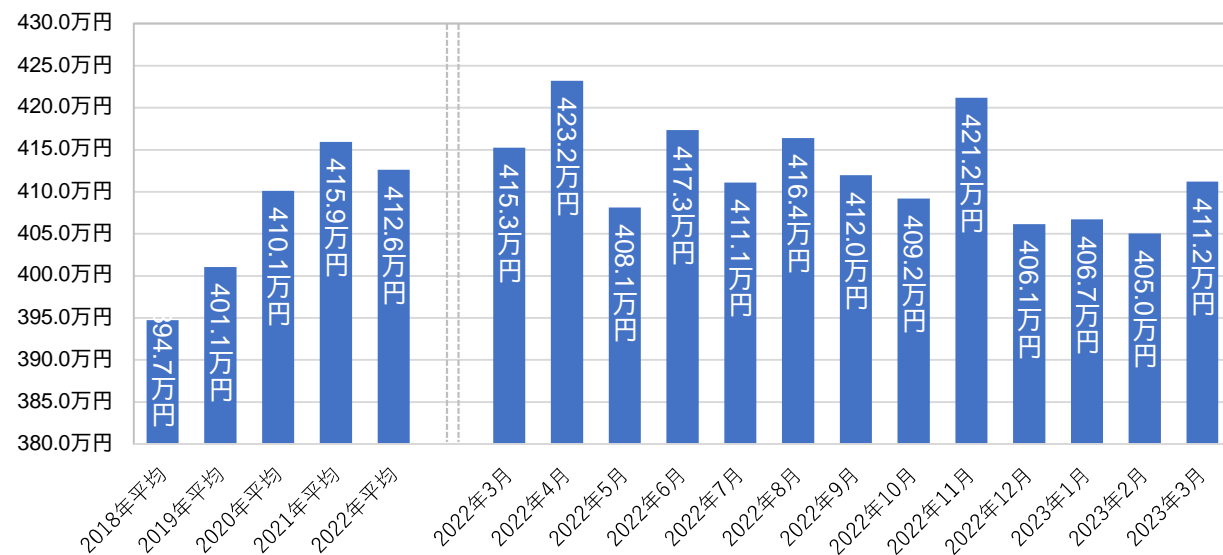


● 鉱工業	99.1	98.7	96.2	86.3	77.2	81	86.6	88.3	91.6	93.5	94.2	94	95.8	95.7	97.3	98.4	92.3	98.9	98.1	96.2	89.9	91.8	96.4	96.6	94.3	96.2	96.5	95.1	88	96.1	96.9	100	98.5	95.3	95.5	95.8	90.7	94.9	95.9
○ 化学工業（除・医薬品）	101	103	97.4	95.6	89.3	89.5	91	92.5	93.4	92.7	91.7	92.3	96.3	93.8	97	98.7	97.8	101	97.8	96.9	99.5	98.1	98.4	97.3	97.9	93.4	94.3	96.2	92.9	97.7	94.6	94.3	95.3	93.1	94.5	93.3	93.7	88.9	90.2

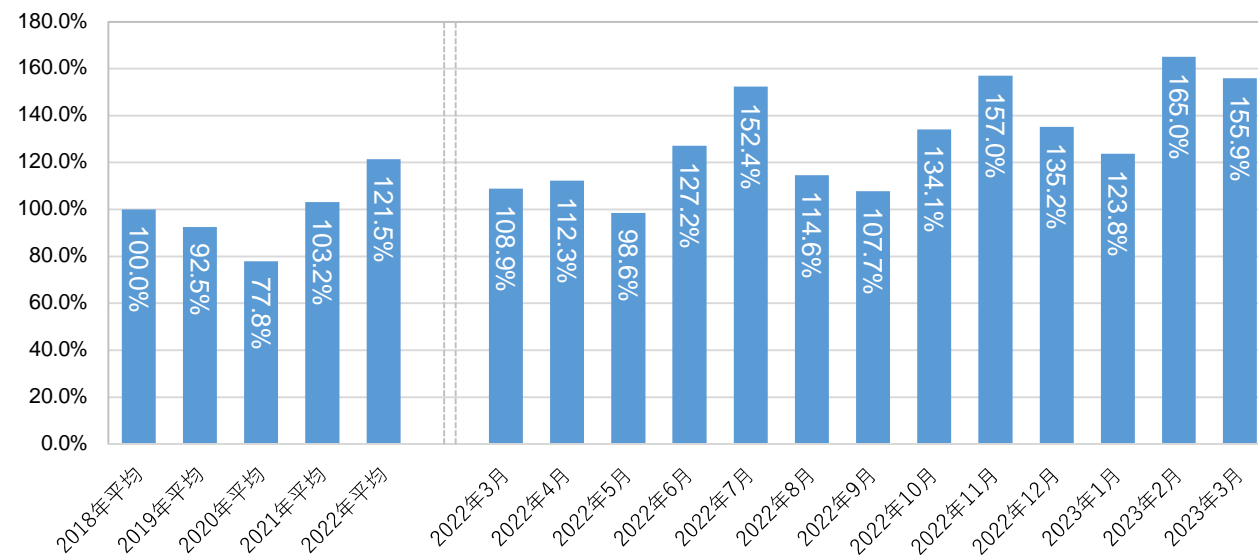


化学の正社員の平均初年度年収は2018年から2021年までは上昇がみられたが、2022年には前年を下回る結果となっている。また求人件数の傾向としては、2020年に大きく落ち込んだが、2021年、2022年と増加している。

化学の平均初年度年収



マイナビ「正社員の平均初年度年収推移レポート」より作成

化学の求人件数推移  
2018年平均値を100%としてグラフ化

マイナビ「正社員の求人件数・応募数推移レポート」より作成

## 「正社員の初年度年収レポート」における年収集計方法

該当月における、総合転職情報サイト「マイナビ転職」に掲載開始された求人情報から、雇用形態が正社員以外のデータを除外集計。厚生労働省「国民生活基礎調査 所得の分布状況」を元に、所得金額上側1%を本レポートでは外れ値として設定。

マイナビ転職では、初年度年収は各求人ごとに幅をもって記載されているが、当レポートでは各求人に掲載されている初年度年収の下限と上限の中間の値を平均値として「初年度年収」を算出した。

## 「正社員の求人件数・応募推移レポート」における求人数集計方法

該当月における、弊社総合転職情報サイト「マイナビ転職」に掲載開始された求人情報から、雇用形態が正社員以外のデータを除外集計。